

2009年9月11日(金)開催「第17回リバーフロント整備センター研究所報告会」
におけるJRRN事務局発表資料

河川再生に関わる技術・情報の蓄積と 国際ネットワーク構築の取り組み

研究第一部
研究員補 沼田彩友美
(現:企画グループ)

ARRNの概要

第4回世界水フォーラム：自然再生セッション提言概要(2006.3)

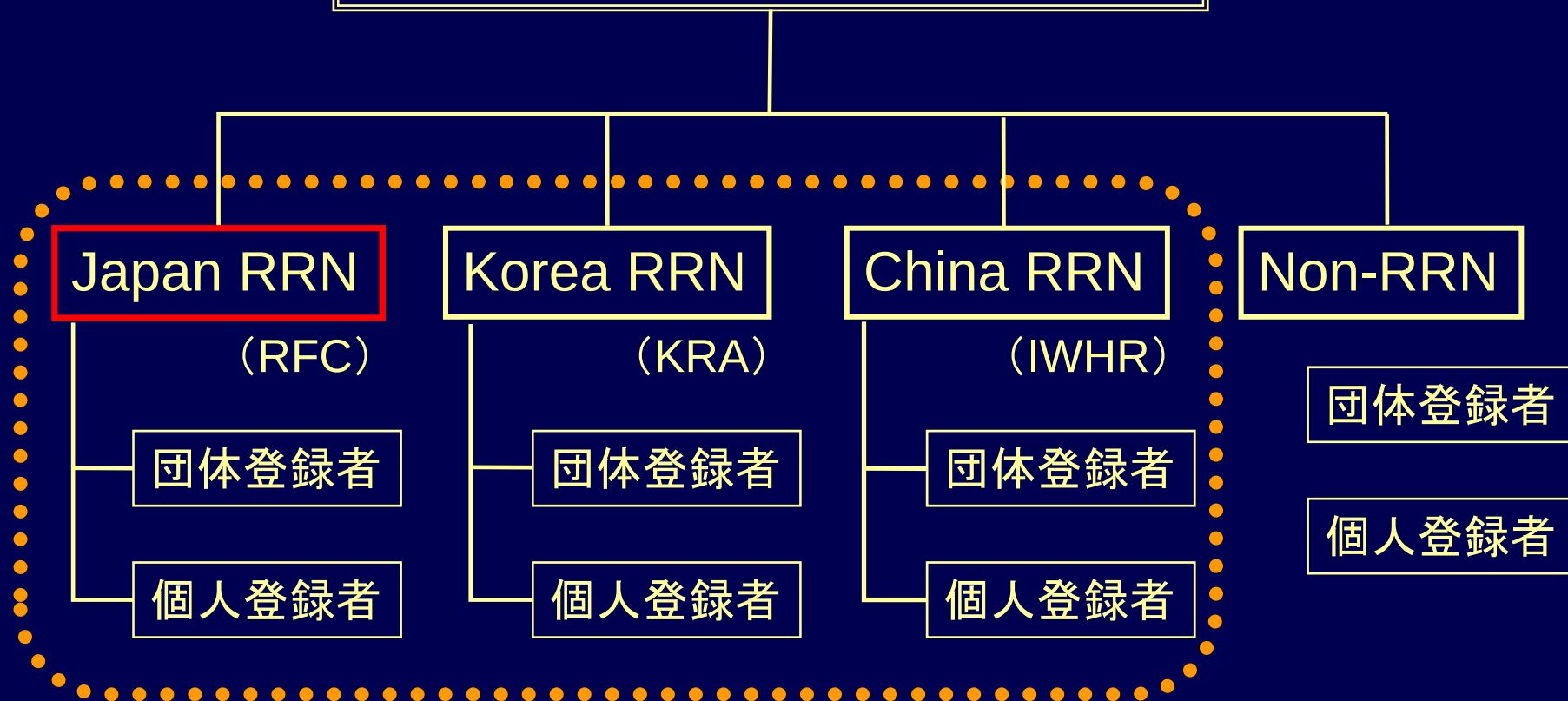
- 河川環境の再生は、治水や利水と同じく、人類の存続に不可欠。
- 河川環境管理に際しては流域を基本単位で考える。
- アジアに相応しい河川環境再生の方法論を確立することが必要。
- アジアの歴史・文化的土壌として人間活動と自然との調和がある。
- 実務者・研究者・生態学者・管理者・市民で、河川再生に関わる優れた事例や専門情報を共有する仕組みが不可欠。
- 類似した自然・社会環境を持つアジアとして、河川再生の技術指針を共有することが緊急の課題。



アジア河川・流域ネットワーク(ARRN)

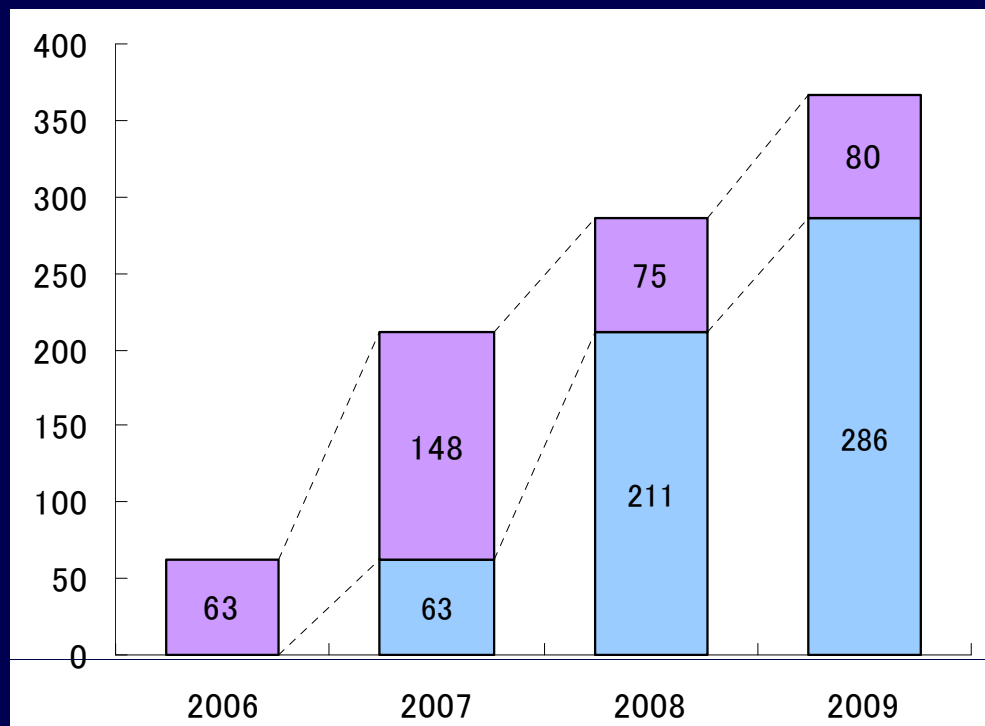
ARRNの構造

アジア河川・流域ネットワーク
(Asia River Restoration Network)

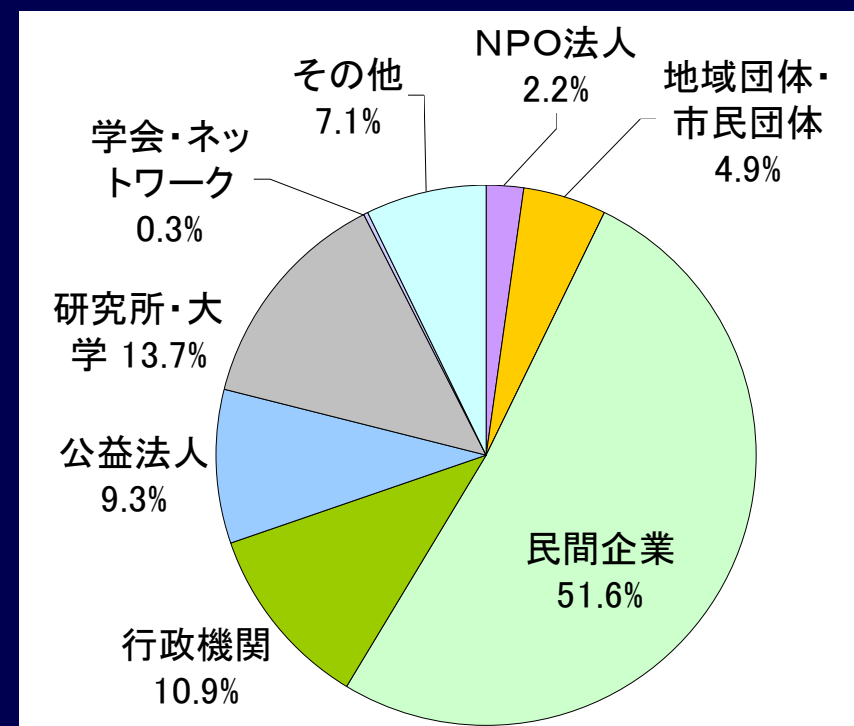


KRA: 韓国河川協会
IWHR: 中国水利水電科学研究所

JRRNの構造



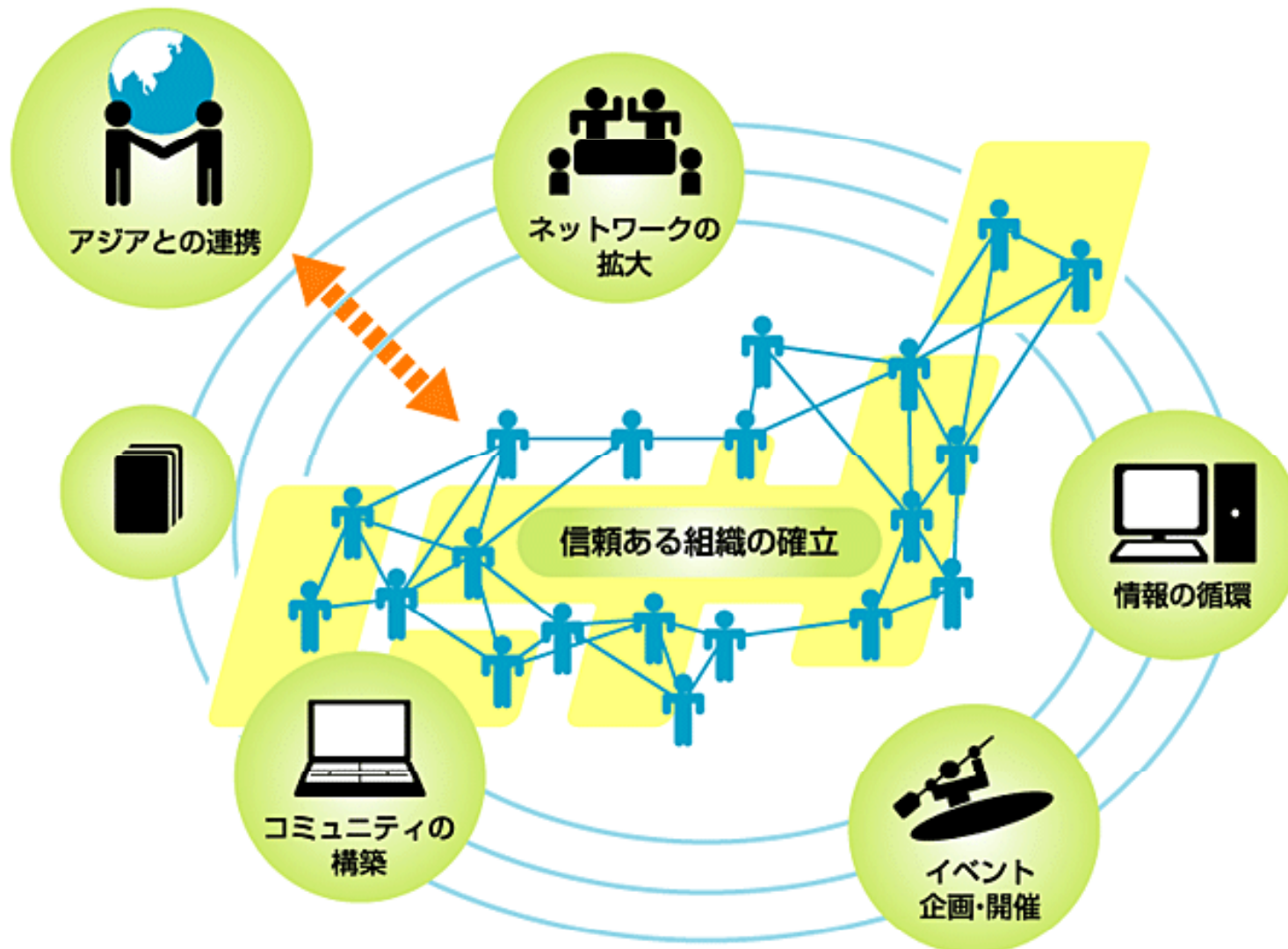
個人会員の推移



個人会員の構成

- 個人会員: 366人(2009年9月3日現在)
- 団体会員: 11団体

JRRNの活動ビジョン



ARRN／JRRNの活動(2008年度)

〈パートナーシップ構築〉

- ARRN情報委員会・技術委員会の新規設立及び開催
- 運営会議や国際フォーラム等の開催

〈情報や技術の整備・共有〉

- 国内の河川再生事例の収集整理及び国内外へ紹介
- 河川再生ガイドライン(第一版)の作成と配布

〈ネットワークの充実〉

- 会員特典を明確化
- 国際会議等への積極的参加、海外類似団体との連携

ARRN／JRRNの活動(2008年度)

〈パートナーシップ構築〉

- ARRN情報委員会・技術委員会の新規設立及び開催
- 運営会議や国際フォーラム等の開催

〈情報や技術の整備・共有〉

- 国内の河川再生事例の收集整理及び国内外へ紹介
- 河川再生ガイドライン(第一版)の作成と配布

〈ネットワークの充実〉

- 会員特典を明確化
- 国際会議等への積極的参加、海外類似団体との連携

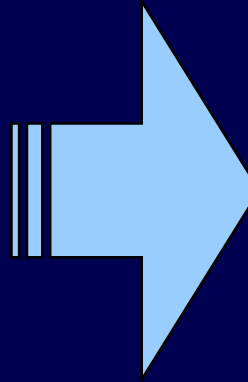
【運営基盤の確立】

情報委員会

ARRNの今後の活動内容や
情報循環策について議論
※各RRNの情報委員で構成

技術委員会

ARRNとして保有すべき技術や
アジア版河川再生ガイドライン
のあり方について議論
※各RRNの技術委員で構成



運営会議

※ARRN会長、各RRN代表者
及び情報・技術委員で構成



国際フォーラム (ARRN)

第5回 水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム(2008.11) ～ アジア河川・流域再生ネットワーク(AARRN)～ The 5th International Forum on Waterfront and Watershed Restoration ～ Asian River Restoration Network (ARRN)～

近年、増加する人口と急速な都市化に伴い河川環境の悪化が各国で進んでおり、その問題を解決するために、世界では自然再生の研究、活動に基づいた研究や再生が実施されています。2006年11月、中国、韓国、日本、マレーシア等からの代表者による議論が展開され、河川、流域の自然再生を進める上で、より効率的、かつ効果的に実施するために、国内外の情報、知識の共有化の重要性が再確認されました。そのため、中国、韓国、日本の3ヶ国を中心として、アジア河川・流域再生ネットワーク(AARRN)が設立されました。

今回、情報共有活動の一環として「第5回 水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム」を、11月3日から5日まで北京市で開催される「第4回アジア・太平洋水文水資源協会(APHW)国際会議」の特別分科会(special session)として開催します。

日 時 : 2008年11月4日(火) 8:45 - 12:00
会 場 : 中国 精華大学 (北京市)
主 催 : アジア河川・流域再生ネットワーク(AARRN) 財団法人リバーフロント整備センター
中国河川・流域再生ネットワーク(CRRN)

プログラム

司会進行 玉井信行 (ARRN 会長)

8:45-10:15

開 会 開催挨拶 (中国水利水電科学研究院)

講 演 Dr. Chang Wan Kim (韓国建設技術研究院)

■韓国における河川再生の取組み (未定)

講 演 戸田祐嗣 (名古屋大学 准教授)

■河川・流域再生における自然共生型環境管理技術開発について ～伊勢湾流域圏での取組み

10:15-10:30

休 憩

10:30-11:50

講 演 Dong Zheren 教授 (中国水利水電科学研究院)

■河川再生の理論と実践

講 演 Wang Zhaoying 教授 (中国精華大学水利科学・技術研究所)

■中国における河川再生に向けた技術研修

講 演 Chang Jianbo 教授 (中国)

■中国における河川再生の取組み (未定)

11:50-12:00

総 括 玉井信行 (ARRN 会長、金沢学院大学大学院特任教授、東京大学名誉教授)

※各講演の最後に、5分間の質疑を設けております。

「第5回 水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム」は、11月3日から北京市で開催される「第4回 アジア・太平洋水文水資源協会 (APHW) 国際会議」の特別分科会のひとつとして開催されます。国際フォーラムに参加ご希望の方は、「第4回 アジア・太平洋水文水資源協会 (APHW) 国際会議」への参加申し込みが必要となります。参加申し込み登録は、<http://www.4thaphw.org> のサイトよりお願いいたします。

河川環境ミニ講座 (JRRN)



第3回河川環境ミニ講座
「環境流量からみえるアジアの風土性」
・講演: 筑波大学 白川講師
・2009年5月開催

ARRN／JRRNの活動(2008年度)

〈パートナーシップ構築〉

- ARRN情報委員会・技術委員会の新規設立及び開催
- 運営会議や国際フォーラム等の開催

〈情報や技術の整備・共有〉

- 国内の河川再生事例の収集整理及び国内外へ紹介
- 河川再生ガイドライン(第一版)の作成と配布

〈ネットワークの充実〉

- 会員特典を明確化
- 国際会議等への積極的参加、海外類似団体との連携

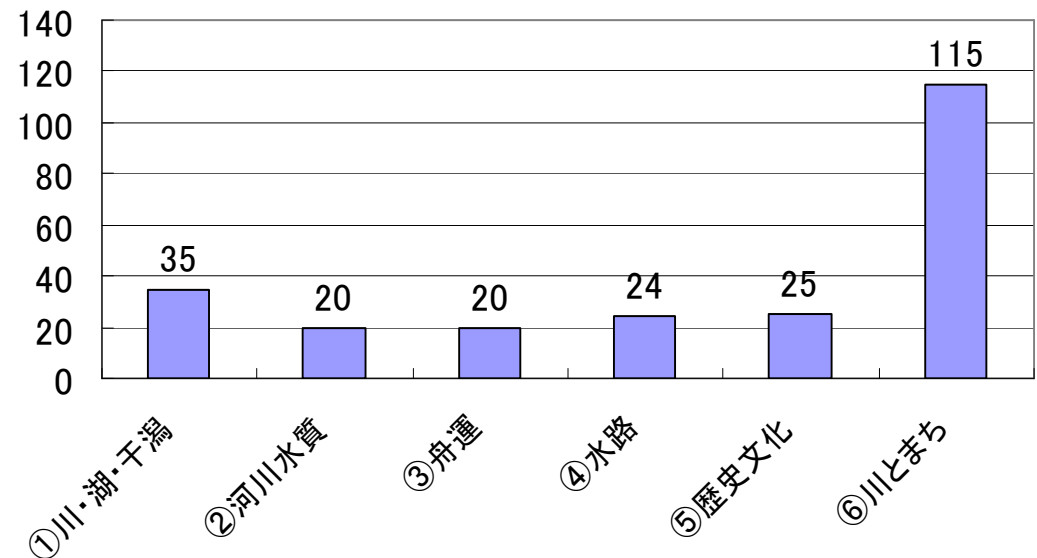
【河川・水辺再生事例の整理・公開】

背景

- 「河川再生に関わる優れた事例や専門情報を共有する仕組みが不可欠である」(第4回水フォーラムより)
- 河川再生事例が体系的に整理されている情報共有媒体は少ない。
- アジアの国々からのニーズ

カテゴリー

- ①川・湖・干潟の自然再生
- ②河川水質の再生
- ③舟運の再生
- ④水路の再生
- ⑤歴史文化の再生
- ⑥川とまちの再生



全211事例

【河川・水辺再生事例の整理・公開】

境川水系和泉川の再生事例(神奈川県・横浜市瀬谷区)



地蔵原の水辺(左)と関が原の水辺(右)
(平成20年5月 丹内道哉撮影)

横浜市瀬谷区・泉区を南北に縦断して流れる和泉川は、「ふるさとの川整備事業」として河川環境の整備が進められ、横浜市の河川環境整備の重点河川にも位置付けられています。

河川再生を行うに当たり、1990年代前半には、和泉川流域の動植物に関する基礎調査が行われ、これら自然の生物資源を守りながら、景観、土地利用の計画が行われました。

現在、和泉川は都市河川でありながら、水辺の生態系・景観・市民の利用の視点から川の持つ多様性が再生された好事例として、河川再生に取り組む関係者の注目を集めており、2005年には「土木学会デザイン賞」で最優秀賞に選ばれました。

→和泉川に関する「水辺を楽しむ」の記事はこちら
地蔵原の水辺 和泉川親水広場

→土木学会デザイン賞2005受賞記事はこちら(土木学会ホームページへリンク)

By JRRN事務局 | カテゴリー: 自然豊かな河川再生事例, まちづくりと一体の河川再生事例, 関東 | コメント(0) | トラックバック(0) |

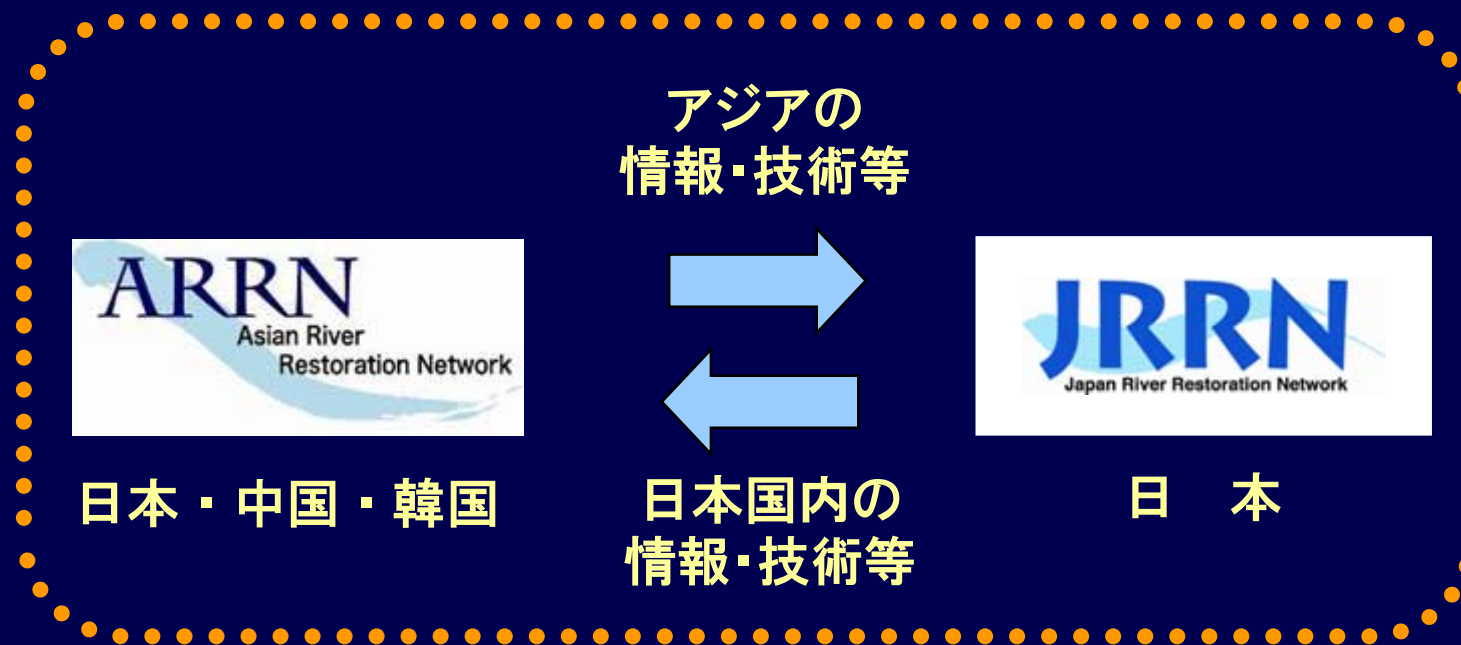
今年度の予定...

- 段階的に情報を公開
- 画像の不足の解消
- 位置情報の提供
(Googleマップを活用)
- ARRNウェブサイトに掲載

【河川再生ガイドラインの作成】

目 的

- 「類似した自然・社会環境を持つアジアとして、**河川再生の技術指針を共有**することが緊急の課題」(第4回水フォーラムより)
- 河川再生活動への波及
- 作業を共有することにより、国際情報ネットワークを円滑にする



【河川再生ガイドラインの作成】

- 「川の自然再生に関するガイドライン」の目次・原則を基礎に作成
- 「河川環境再生の具体策(第4章)」に対応した収集整理

収集整理した既存の国内技術指針

技術指針の発行年

	調査・研究	流域住民の 意思形成	合意形成	水量と水量 の確保	親水空間の 確保	自然環境の 再生
1993					1	
1994	1					
1995					2	
1996						1
1997	2			3	2	1
1998						
1999	1	2	1	1	1	1
2000			1			1
2001			1	2		1
2002		2	4			
2003		1	2		1	1
2004	2	1	1	1	1	2
2005				1	1	
2006	1			2	1	2
2007	1				1	2
2008					2	1
2009	1					
計	9	6	10	10	13	13

計61

【河川再生ガイドラインの作成】



河川環境再生を考える際の基本事項

第1章 なぜ河川環境再生か？



第2章 川の本質を知るために大切な視点



第3章 河川環境を再生する際の留意点



河川環境再生の具体策

第4章 良好な河川環境を再生するための方策



更なる再生活動に向けた参考情報

付録1. 河川環境再生のための方策体系表(案)

付録2. 既存の技術指針一覧

【河川再生ガイドラインの作成】

〈今後のバージョンアップに向けて〉



ARRN／JRRNの活動(2008年度)

〈パートナーシップ構築〉

- ARRN情報委員会・技術委員会の新規設立及び開催
- 運営会議や国際フォーラム等の開催

〈情報や技術の整備・共有〉

- 国内の河川再生事例の収集整理及び国内外へ紹介
- 河川再生ガイドライン(第一版)の作成と配布

〈ネットワークの充実〉

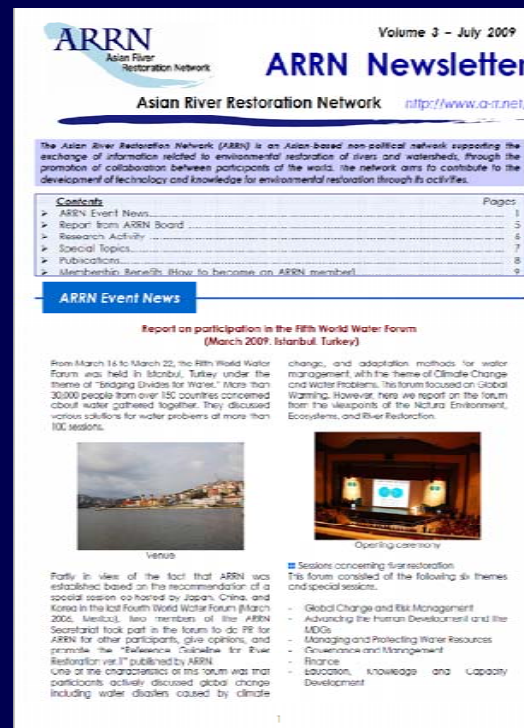
- 会員特典を明確化
- 国際会議等への積極的参加、海外類似団体との連携

- JRRNニュースメール(週2回)
- JRRNニュースレター発刊(月1回)
- ARRNニュースレター発刊(季1回)
- ARRN年次報告書(年1回)

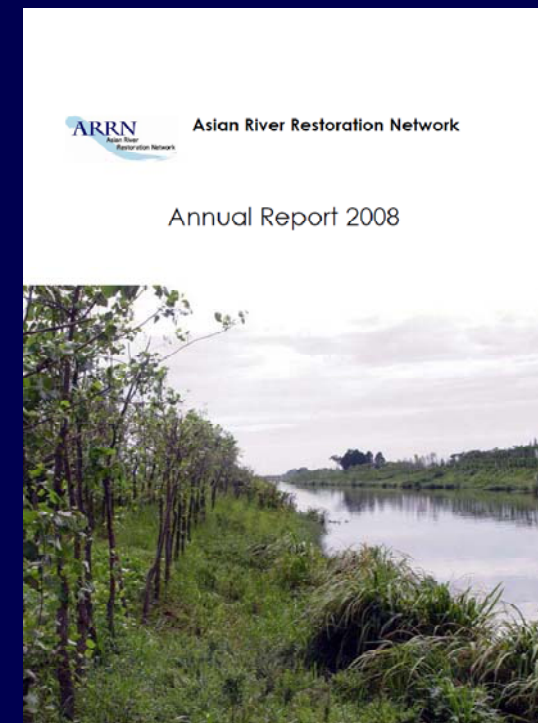
情報の共有



JRRNニュースレター



ARRN ニュースレター



ARRN 年次報告書

諸外国からの研修者等 の受け入れ



国際会議・学会への参加

- 第4回アジア太平洋地域
水文水資源国際会議
- 第5回世界水フォーラム
- 世界都市水フォーラム2009

国内外関係機関への PR活動・意見交換

※JRRN会員は傍聴可能

ARRN／JRRNの活動から・・・

香港政府関係者の隅田川視察支援



川を軸とした再開発の平面図（CEDD提供）



東京都建設局河川部担当者による
河川文化の説明

●CEDD（香港特別行政区土木開発部）on-going projects
(<http://www.cedd.gov.hk/eng/projects/major/kw/index.htm>)

ARRN/JRRNの活動から・・・

台灣河川
復育網站
Taiwan River
Restoration
Network (TRRN)

search...

主選單
Home
網站簡介
河川復育案例
濕地生態復育
相關資訊
意見交流
連絡我們
相關網站

Featured Links:

ECRR歐洲河川復育協會

ARRN是一項機制，目的是在促進具恢復社會和集水區間平衡理念，並分享維持和保護技術的水環境的亞洲國家間資訊的交流。

Feed Entries

ENGLISH VERSION

TOP PAGE

最新發表
高雄內惟埤濕地
台中高美濕地
沙社苗溪人工濕地
內湖大溝溪生態工程
97年河川復育及保育守護隊計畫成果彙編

熱門文章
網站簡介
達娜伊谷的動物相及動物簡介
鹿角溪人工濕地
達娜伊谷生態園區
水生植物手冊

作者: ching
週二, 08 九月 2009 14:59

內惟埤濕地

「內惟埤文化園區」地處高雄市都會區的西北方鼓山區，北邊有龜山、半屏山，西側有壽山，並且緊臨愛河流域，園區範圍廣闊，佔地約41公頃，除了有各項親民便民設施外，還結合美術館公園的設置形成高雄市區中的多元生活園區。高雄市政府原規劃將埤塘池面填平以擴大建設各項硬體設施，但經過「濕地保護聯盟高雄分會」及「高雄鳥會」等民間團體大力呼籲「水域設計生態化」與「保留現有水田及週邊天然植被」，佔地約3公頃的「內惟埤濕地」終於於2000年12月正式完工啟用，且被當地市民暱稱為「美術館濕地」。

內惟原名「內厝」，面積約三十二甲，清朝時為防亂匪，以縣府駐兵鎮守保護地方，因而得名。民國九年日本政府才將內厝改為「內惟」。根據考證台灣以人工築堤儲水或攔截溪流以工灌漑者均稱為「埤」或「坡」，內惟埤之名乃不脛而走。內惟埤原面積超過三十公頃，是高雄最大的埤塘濕地，歷史可追溯自清康熙年間（1662~1722年），直到開發成文化園區前，為高雄重要灌溉蓄水池埤塘之一，與蓮池潭、蔡公埤、愛河相連，早期可由打狗港行舟至此，日據時期光復初期，許多原本船亦由愛河運到此處，因此有許多原本蓄水池及木材加工廠在附近，早期曹公圳放水也規定必須先灌滿內惟埤和蓮池潭後，再開放水給農田，重要性可見一斑。內惟埤所在的內惟就是打狗最早的幾個聚落之一，懸繫許多人的回憶，早期高雄人多對內惟埤有深刻印象，埤內盛產蓮藕、菱角及魚蝦，以波開灌溉附近廣闊的田野。

台灣河川・流域再生ネットワーク

URL: <http://trrn.wrap.gov.tw/>

- ・河川復元事例: 22事例(台灣)
- ・湿地生態復元事例: 2事例
- ・その他: 国外事例や水質再生的事例

三合溪流生態保育

位於高雄縣六龜鄉的三合溪，主要聚落於省道台27縣三合橋端，但今住戶人口數不多，居民以種植蓮霧、蜜棗等高經濟價值水果為主。由於現今保育觀念提升，對溪流及山林的經營模式朝生態多樣性發展，當地地方人士以為三合溪生態資源豐富，應以永續利用觀念經營，經高雄縣政府公告封溪並由當地社區居民組成護溪團體・中興社區護溪巡守隊，該巡守隊不僅崗哨於三合橋頭並設置賞蝶導覽解說服務站，招募許多原為消費角色的漁獵者投身保育志工，希望經由體驗護溪過程及成效，使生態保育與生活娛樂達到互利共存。

▶中華民國94年7月1日公告三合溪封溪護漁迄今，以有效維護三合溪自然景觀及河川生態，落實野生動物保育工作，確保三合溪流域生態永續經營。

財団法人 リバーフロント整備センター

20

2009年度以降の課題・活動計画

【ARRN】

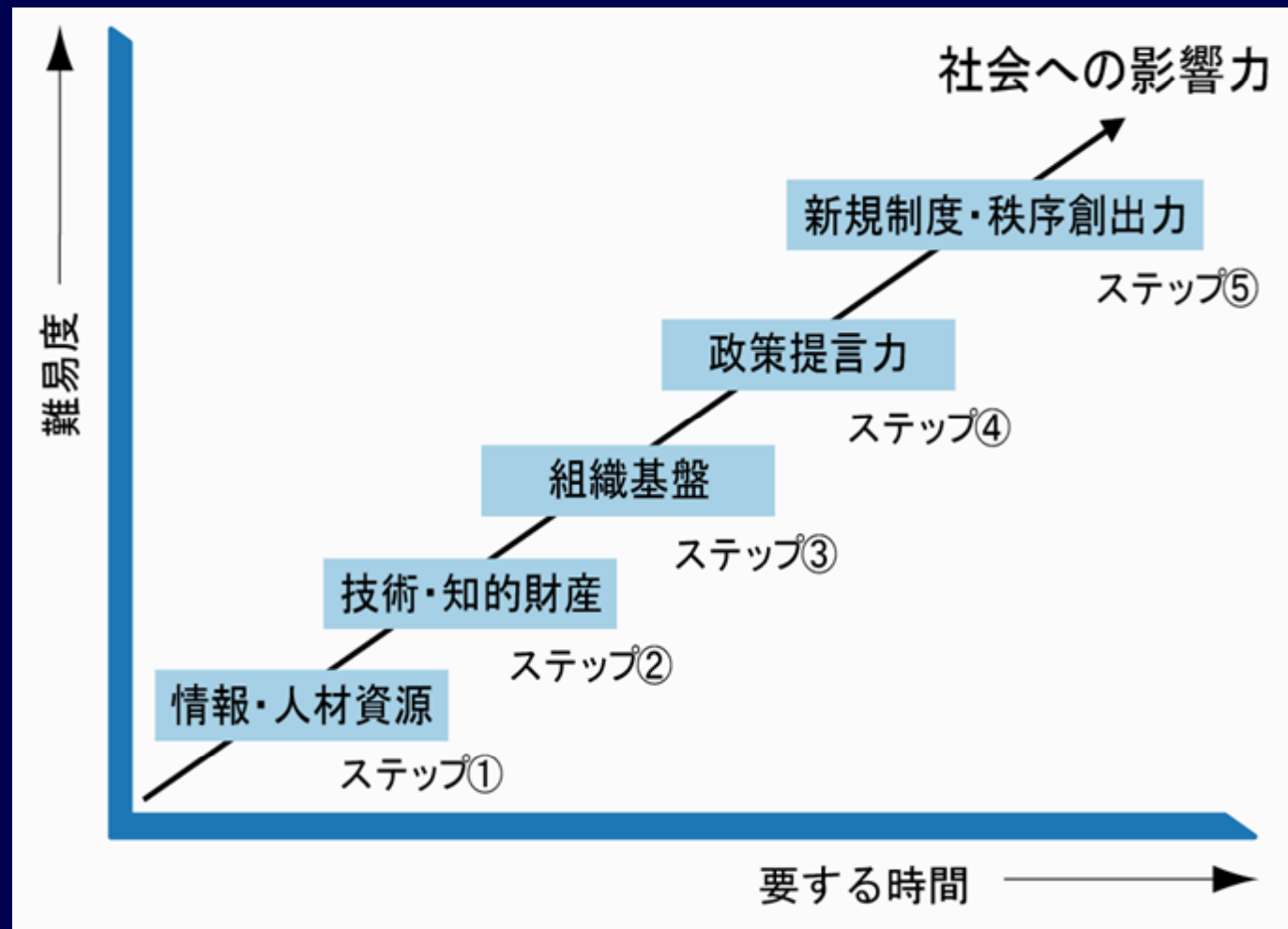
- 河川再生に関わる事例収集・整理
- ガイドラインのバージョンアップ
- ARRNホームページの再構築
- 各RRN体制の充実
- 海外類似組織との積極的な交流

【JRRN】

- 会員特典の明確化
- 会員をまきこんだ運営
- ネットワークの拡大
- ネットワークのマネジメント体制の充実化
- 海外文献等の翻訳及び配信

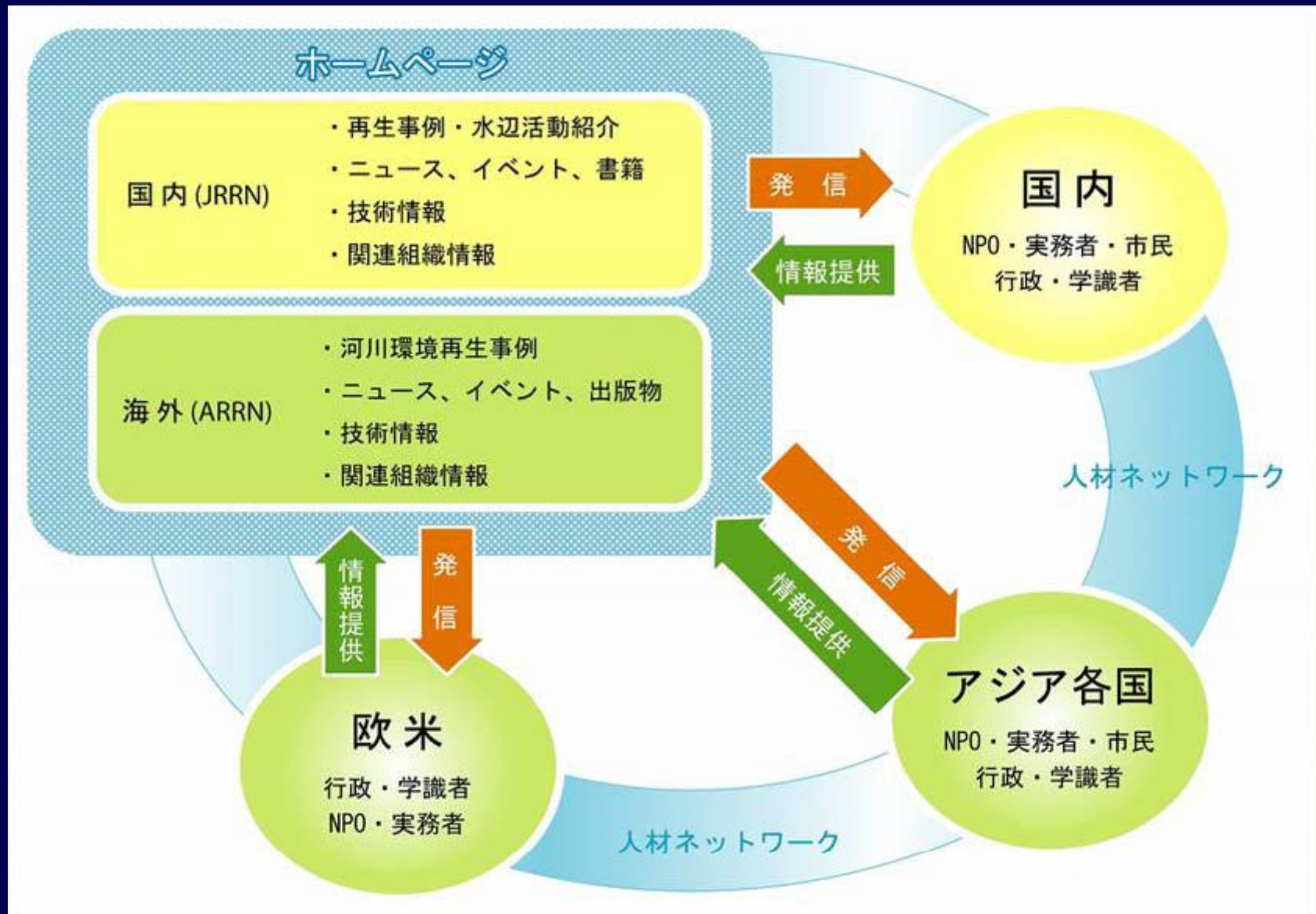
今後の展開

〈ネットワーク発展段階での必要な要素〉



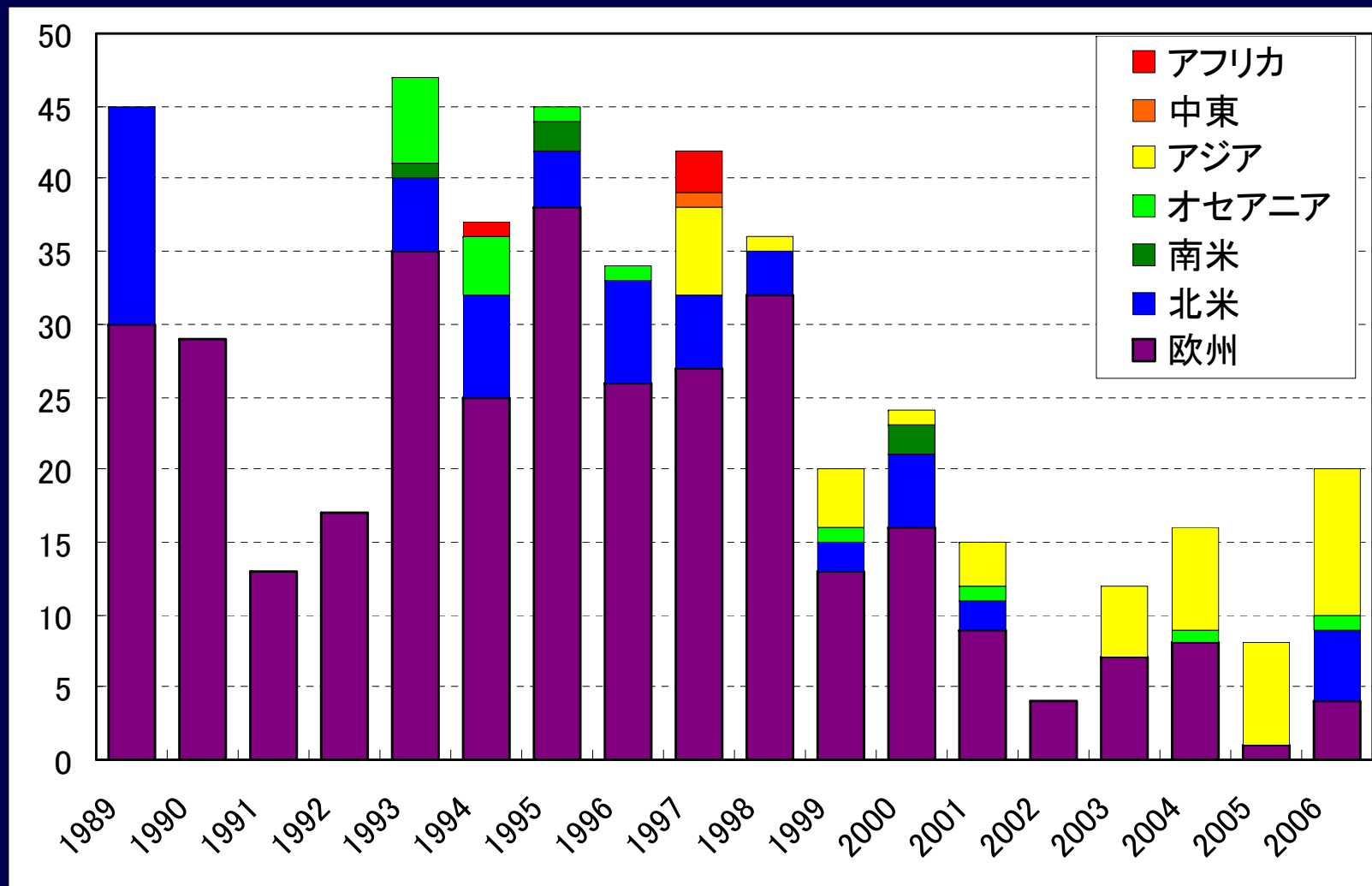
情報元: 2009年3月開催・第5回世界水フォーラムにおけるECRR会長講演内容

今後の展開



リバーフロント整備センターの国際活動

件数





ご静聴ありがとうございました

<http://www.a-rr.net/>

